

令和5年度 第1回 射水市教育振興基本計画策定懇話会 会議録

(日 時) 令和5年7月25日(火) 15:02~17:05

(場 所) 射水市役所 401会議室

(出席者) 委 員：成瀬喜則、藤井徳子、高畠章司、中島博美、川腰喜久雄
浅村豊、漁幸子、小竹信成、櫻野栄子、中神知佐子(10名)
事務局：16名

協議事項

(1) 射水市教育振興基本計画の策定について

*資料に基づき事務局説明

(質疑応答)なし

(2) 第2期射水市教育振興基本計画策定に向けた関係計画等及び基本理念、基本目標(案)について

*資料に基づき事務局説明

(質疑応答)

【委員】市の基本計画は、国・県の計画を踏まえたものと思うので、基本理念には国・県の計画内容を補足してもらえると参考になる。

【会長】国第4期教育振興基本計画の総括的な基本方針は、持続可能な社会の作り手の育成 日本社会に根差したウェルビーイングの向上とし、基本方針が4つある。これを受けて富山県教育振興基本計画の基本理念があり、目指す姿では国でも挙げているウェルビーイングの向上を掲げている。これを受けて市の基本計画を策定しているのか？

【事務局】国・県の計画を念頭に現行の市の計画も策定しているため、第2期も引き続き同じ基本理念とした。

【会長】射水市の意識調査結果で「射水市に住みたい」が全世代で84%、施策の満足度が高い項目が「学校教育」「下水道」「環境保全」であったことから、基本理念をこれまでのものを継続するという案があってもよい。

【委員】国・県のメッセージを受けて、市で地域性を踏まえて実現していくものと想像する。

【会長】地域性を考えることは大切。国・県の方針を受けて、射水市の地域性を考えてキーワードが考えられている。

【委員】基本目標の「学校、家庭、地域が一体となって歩む」とは具体的にどのような事か。地域はどのようなかわりを持ってよいのか。

【事務局】各学校に学校運営協議会を設置し、地域の方に入ってもらい学校運営と一緒に考え活動してもらう「コミュニティ・スクール」という概念がある。現在、地域の方から読み聞かせや、生活や総合的な学習の中で地域の探検などをしてもらっている。地域の方の技能、知識、文化等を学校に取入れ、子どもたちの学びにつなげていく。また、見守り隊として活動しているボランティア等も、コミュニティ・スクールの役割の一つである。コミュニティが豊かになって、子どもたちを育ていくという考え方である。

【会長】現在のコミュニティ・スクールの数は？

【事務局】小中学校は21校あるが、まだコミュニティ・スクールは設置していない。令和5年度は準備段階、令和6年度は半数に設置予定、令和7年度には全学校に設置予定である。

【会長】学校運営協議会では、一つは地域が学校の運営にかかわっていくこと、もう一つは地域の方が地域活動や授業などに積極的にかかわるといことで良いか？

【事務局】もう一つは、地域で企画するとき学校も協力して子どもと一緒に参加していくことである。

【委員】一般の家庭からの参加は？

【事務局】PTAの代表に入ってもらう。

【委員】コミュニティセンターで生涯学習活動の企画運営をしている。生涯学ぶことの意識が高まっているが、子どもたちの参加が難しい。子どもたちにも生涯学習を知ってほしい。

【委員】子どもたちは地域と交わることの楽しさを知らない。生活や総合的な学習で地域活動の楽しさを学校教育で伝えていきたい。

【委員】中学校では土曜日か日曜日に部活動があるが、合唱や家庭科で学んだ遊びを福祉施設見学時に披露する等の交流をしている。コロナ禍より徐々に復活している。地域と学校の二一ズを合致することで活動が充実していくと考えている。

【委員】幼児教育が大切であることの父母の認識が必要と考える。

【会長】第2期の基本目標に「生涯を通じて学び、体験する、活動を支援します」を追加しているが、リスニングに通ずるものがあるかもしれない。新しい計画に盛り込みたいということである。

【会長】「活動を支援する」の活動はどこにかかっているのか？

【事務局】生涯を通じて学ぶこと、体験すること、両者にかかっている。「、」を付けないと、「体験する活動」となってしまうため、「、」を付けた表記とした。

【事務局】現行の基本目標は「きららか射水」で終わっている。今回、総合計画にある「ムズムズ射水」を付けないことについて意見を聞きたい。

【委員】市民に「ムズムズ射水」の意味は浸透していないため、提案のとおりで良い。

(3) 計画の体系(案)について

*資料に基づき事務局説明

(4) 本市教育に関する現状と課題について

* 資料に基づき事務局説明

(質疑応答)

【委員】 学校部活動の地域移行について、平日はどうなるのか？

【事務局】 競技団体、指導者の確保が必要。将来的には平日も地域移行を考えないといけない。

【会長】 休日の部活動の名称は？

【事務局】 地域部活動である。

【委員】 情熱を持った先生が平日のみの指導になることに違和感を持っているという話を聞く。

【事務局】 時代とともに一生懸命部活動をやりたいという教員が少なくなっている。むしろ自分の休日を使って部活動をしなければならないのかという意見から、この地域部活動が始まっている。一生懸命にやりたい教員は、休日は地域の指導者になって関わってもらう、ということを理解してもらいながら地域部活動を進めている。

【会長】 平日の地域移行は出来ないのか？

【事務局】 今するとすれば、スポーツクラブが受け皿となるが、すべての部活を受け入れる競技団体、指導者がいない。

【委員】 違った場所で、お金がかかる場所で活動すると保護者の負担が増える。それを理解して地域部活動に出してもらうのか。もしくは、参加しないという選択も出来るのか？

【事務局】 選択が出来る。

【委員】 資料9ページ 学校給食の充実、食育の推進の表について、現況の上段は「射水市産」下段は「富山県産」となっており、実績の上段は「小学校」下段は「中学校」となっている。

【事務局】 上段が「射水市産」下段が「富山県産」が正しい。訂正する。

【委員】 資料8ページ「日本語指導教員（県加配教員）の配置」は、「外国人児童生徒指導（県加配教員）の配置」が正しいと思う。

【事務局】 確認して訂正する。

【委員】 基本的施策（6）教育環境の整備 環境にやさしい学校施設の整備のところ、建物の窓を複層ガラスにすることで、省エネにつながると思う。

【事務局】 大規模改修にあたっては、複層ガラスとしている。

【委員】 計画に「複層ガラス」という言葉を入れることが出来るか？

【事務局】 出来る。

【委員】 基本的施策（8）幼児教育の推進 相互連携の推進の【現状と課題】で、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）についてあげていることから、基本的施策（1）確かな学力の定着 小中学校の連携のところを 幼・保・小中学校の連携とした方がよい。

また、「個別支援計画」は幼稚園でも作成していることから、基本的施策（3）特別支援教育の充実 相談、支援体制の充実における（現在の実施事業内容）「小・中学校で一貫

した個別の教育支援計画を活用した支援や指導」を「幼・小・中で一貫した～」とした方がよい。

基本的施策（８）幼児教育の推進 教員等の資質能力の向上の【現状と課題】において、キャリアステージとあるが、市だけで策定していくのは困難なため幼児教育センターとの連携の記載があるとよい。また人材育成に頼るのだけではなく、縦割りでの教育体制についても検討していかなければならない。

【事務局】課題若しくは取組で入れていくか、検討する。

【委員】学校施設の改修は、幼稚園も含まれるのか？

【事務局】幼稚園及び認定こども園については幼児教育施設であるため、学校という部類に含まれる。民間の施設については補助金を活用するなどして、民間の判断で改修をしている。

【委員】室温が35 を越えて、エアコンをつけても32 を下回らないという話を聞く。

【事務局】令和3年度から公立施設においてICT化を進めており、児童の体調管理のためモニターチェックを行っている。コロナ禍で夏場においては換気をしながらエアコンをフル稼働していたため室温が十分に下がらないこともあったが、注意喚起やモニターチェックを活用していく。

【副会長】基本的施策（４）郷土愛を育む教育の充実 について、小学生の授業のイメージを持つが、子どもたちの自然観を育むのは小学校からでは遅い。乳幼児からが大切と言われているため、乳幼児からという文言を入れてほしい。

【事務局】方向性や施策の位置づけを整理して、その観点を踏まえて検討する。

【委員】夏休みのプール監視員の体制が学校によって違うと聞いている。実際はどうなのか？

【事務局】全学校の監視体制を把握していないが、基本的には教職員、PTA、市で雇用したプール監視員を配置している。